

製品名: メノウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13818**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	67kDa

抗原情報

遺伝子名	ENAH
別名	ENAH; MENA; Protein enabled homolog
遺伝子 ID	55740.0
SwissProt ID	Q8N8S7
免疫原	抗血清はヒト ENAH 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 472-521

背景

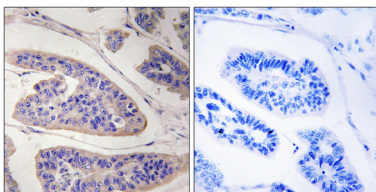
この遺伝子は、活性化/血管拡張刺激リン酸化タンパク質のメンバーをコードします。この遺伝子ファミリーのメンバーは、アクチンを基盤とした運動に関与しています。このタンパク質はアクチンフィラメントの集合を調節し、細胞接着と運動性を調節します。こ

の遺伝子の選択的スプライスバリエントは、特定の組織における腫瘍浸潤性と相関しており、予後マーカーとして機能する可能性があります。この遺伝子の擬似遺伝子は3番染色体上にあります。[RefSeq提供、2016年9月]、ドメイン: EVH2ドメインは3つの領域で構成されています。ブロックAは、G-アクチン結合に必要なチモシン様ドメインです。このブロック内のKLKRモチーフは、G-アクチン結合とアクチン重合に不可欠です。ブロックBはF-アクチンの結合と細胞内局在に、ブロックCは四量体形成に必要である。機能: Ena/VASPタンパク質は、細胞骨格のリモデリングと細胞極性に依存する様々なプロセスに関与するアクチン関連タンパク質であり、軸索誘導や遊走細胞におけるラメリポディアおよびフィロポディアの動態などに関わる。ENAHは線維芽細胞においてF-アクチンを豊富に含む突起の形成を誘導する。BAIAP2- α およびNTN1の下流と相乗的に作用し、フィロポディアの形成を促進する。リステリアモノサイトゲネスのアクチンベースの移動に必要です。PTM:NTN1によって誘導されるPKAのSer-265リン酸化は、糸状仮足の形成と直接並行します。PTM:DNAが損傷すると、おそらくATMまたはATRによってリン酸化されます。類似性:Ena/VASPファミリーに属します。類似性:1つのWH1ドメインを含みます。細胞内局在:MRLファミリーのメンバーによってラメリポディアと糸状仮足の先端に標的化されます。糸状仮足の先端で、ピンキュリンやジクリンを含む他の多くのタンパク質と共局在します。先端でN-WASPと共局在します。シナプスでGPHNおよびPFNと共局在します。サブユニット:ホモテトラマー(類似性による)。APBB1IP、PFN1、およびROBO4と相互作用します。PPLPモチーフを含むポリプロリンリッチ領域を含むアイソフォームは、APBB1IPのWWドメインに結合します。PPSYモチーフを含むアイソフォームは、in vitroでNEDD4のWW2およびWW3ドメインと、YAP1のWW1ドメインに結合します。BAIAP2-alphaのSH3ドメインに結合しますが、BAIAP2-alphaの自己阻害領域がCDC42との相互作用によってブロックされた後にのみ結合します。EVH1/WH1ドメインを介して、VCL、ZYX、およびリステリア・モノサイトゲネスactAのプロリンリッチドメインと相互作用します。ZYXとの相互作用は、ENAHを接着斑に標的化するために重要であり、細胞の頂端表面でのアクチンリッチ構造の生成を促進します。プロリンリッチ領域を介してDNMPBのC末端SH3ドメインと相互作用します。GPHNに結合する。組織特異性: 耳下腺、乳腺、気管支腺、汗腺の筋上皮に発現する。結腸直腸筋層粘膜上皮、膵臓腺房管上皮、子宮内膜上皮、前立腺線維筋性間質、胎盤血管中膜に発現する。乳癌細胞株および原発性乳癌病変の大部分で過剰発現する。

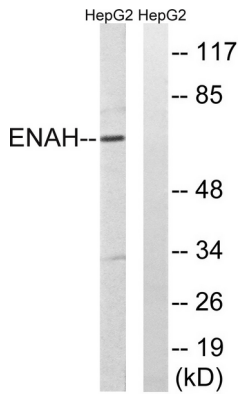
研究分野

アクチンと細胞骨格を調節します。

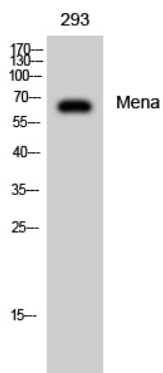
画像データ



ENAH抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



ENAH 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した Mena ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット分析